

# ラグビーは簡単な競技

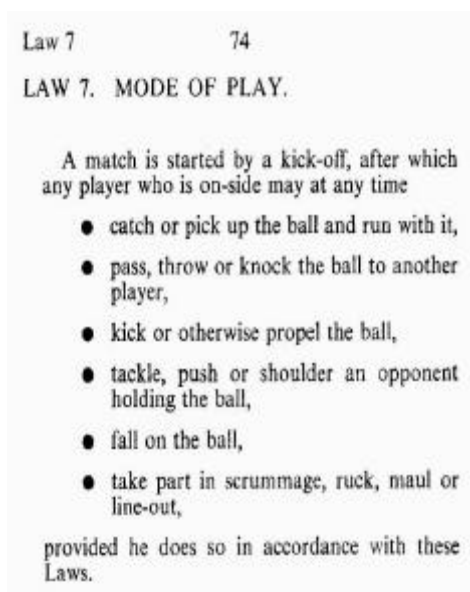
ラグビーは分かりにくいという声があります。分かりにくいことが面白くない原因になっているようです。ラグビーは簡単な競技なのに、分かりにくいものにしてしまっているのは残念な事です。反省され見直しが始まっていることが次の文でわかります。

We are looking at the game in a new light with the idea of making it simpler and easier to play and referee, and to ensure Rugby is understood and enjoyed by the increasing number of spectators that are being attracted to the game.

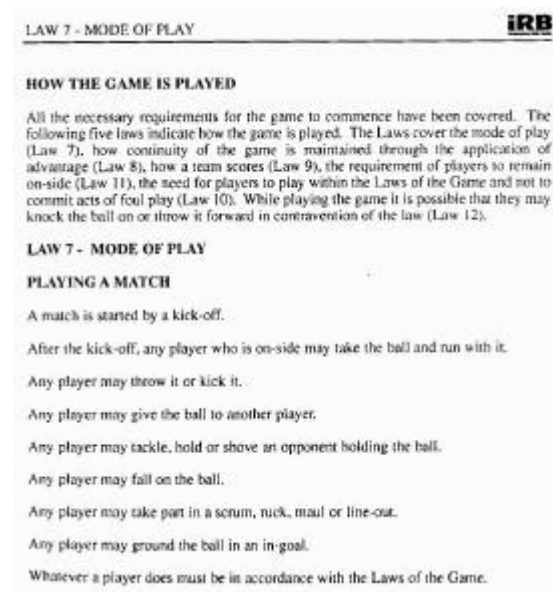
ラグビーを楽しむために、反省からの議論の経過と意図を前もって認識することは、ルールを正しく守るという点でも有意義なことです。

見直しの方向としては、どのように競技するのかについて、「できないとかしてはいけない」(can not, must not)でなく、「できる・してもよい」(can, may)を骨格として今より強く打ちだしていくことも議論されているようです。温故知新。競技方法 MODE OF PLAY 第7条は、できることを羅列し、簡単で自由であることを宣言した条文です。「全身を使って自由にやりなさい」というラグビーの競技方法の基本は、ラグビー誕生以来変わっていません。

1971年即ちRFU創設100周年記念式がトゥイッケナムで世界中が集まって盛大に開催された年と、2000年ミレニアムの改革と整理がなされたものを対比してみると、内容が変わっていないことがわかります。2000年の表紙に、「THE LAWS OF THE GAME MADE EASIER」という言葉が付け加えられていることに注目しなければなりません。内容としてはただ一つ、pushがshoveに書き替えられていることは注目しなければなりません。pushは押す。押し動かす。shoveは曲げていた膝を伸ばすようにする一押しです。push as tagの感じですが、押す長さでいえば10cm位ということです。日本語ではどちらも「押す」と訳されていますが、短い適当な表現がないからであって、短絡的に同じ押すだと思っはいけないのです。power rugbyの時代にpowerの適切な効用について限定するもので、望ましいラグビーの方向性を示す重大な問題なのです。



1971年 競技規則 第7条



2000年 競技規則 第7条

2000年第7条は、ルールに説明的に、「ラグビーフットボールはどのように競技されるか」が挿入されています。世界中のいろいろな地域のいろいろな人たちにラグビーが普及したグローバル化の産物です。

上の競技方法でラグビーを楽しむ場合に大切な心構えとして3つの事があげられます。

- 1 . equal condition 条件から公平に
- 2 . open play 展開継続に努める
- 3 . Safety 事故防止

この心構えで競技方法通り、flair を働かせて自由に即ち全身を使って全霊を働かせて楽しむことは、簡単で分かり易い事です。本能にしたがって(instinctively)自由にやっいけないのは

10m サークルのルールだけで、それは「伸び伸びと自由奔放にやりなさい」という時の論拠にもなっているのです。

現在のルールを「正しく」守るとは、消極的 negative ではなく積極的に positive プレーして good, bright, interesting rugby game を楽しむということです。勝利至上主義で勝てば官軍と公言することなく、IRB のルール改訂をまつことなく、ラグビーを楽しむ文化を育てる営みを始めなくてはなりません。プレーヤーはできることだけをやって、できないこと即ちしてはいけないことをしないことです。ルール見直しの方向として、ルールの意志に沿ってできることの範囲を広げようというものであるとつたえられています。タックルからラックになって、ボールを放さなかったのか、放させなかったのか問題にするよりも、もっと手でボールを扱うことができるようにすれば中断が少なくなり、分かり易くなるということもその一つです。

2006.03.18  
西川 義行